

令和4年度 日下地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業実績評価）

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

新型コロナウイルス感染症の感染が治まらない状況が続いています。引き続き感染症拡大予防の取り組みを続けていますが、部屋の利用の制限や行事等の縮小・中止等によりケアプラザの利用が大幅に減少しています。また、地域においても福祉保健活動や地域の方々が気軽に集まる機会等が自粛により制限されやはり団体、個人問わず不活発な状態が続いています。ケアプラザとしては、感染拡大防止に最大限の注意を払いながらも「身近な福祉保健活動の拠点」としての「場」をつくれるように務めていくとともに、「withコロナ」を前提に新たな活動を企画したり、地域の福祉保健活動の支援を充実させることを目指します。また、個別の支援においても、各部門の専門性をいかし連携するとともに外部の関係機関とも連携しながら支援が必要な方々に寄り添っていきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域活動支援センター(障害者地域作業所型)と笹下川再生プロジェクトの連携・協働を皮切りに、既存の社会資源を組み合わせ、新たな地域活動の創出、人材の育成・発掘、ネットワークの構築を視野に入れた働きかけを行います。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	着実に進む地域住民の高齢化を見据えた、権利擁護事業を講座などを通じて普及・啓発していきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	医療・福祉・地域が「見守り」を通じて包括的な支援ができるよう働きかけを継続していきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Ayamuデータを活用し幅広い分野の相談に応じられるような情報提供をします。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	高齢者一人ひとりが自分の健康増進・介護予防に意識をもてるよう介護予防普及強化事業の講座を通じて普及・啓発していきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

新型コロナウイルス感染症の感染リスクは常に残っていますが以前のように行動制限が発令されるような状況ではなくなり、地域の行事等も感染拡大の予防に配慮しながら再開されることが多くなりました。ケアプラザも地域の取組には区や地区社協と共にできるだけ参加・協力し保健福祉活動の維持や活性化に繋がるように努めています。
 ケアプラザの利用においては、部屋利用の実績がコロナ前に比べ3割程度しかない状況が今年度も続いており「WITHコロナ」を踏まえた活動内容の変更や担い手の方々の支援を実施し少しずつ活性化に向けて取り組んでいます。
 個別の支援においても地域のサロンや移動販売等様々な場に出向いたり、見守りに参加・協力する団体等との関係を深めながら、顔の見える関係を築き相談等につなげています。
 情報の受発信などのICTを活用した取組は、専門職を対象にオンライン講座を開き情報共有に役立てたり、インフォーマルな地域情報を誰でも検索できるように「Ayamu」のデータを一般公開するなど普及に努めました。また、ケアプラザのネット環境を使って地域の方々に気軽に情報端末を扱えるようにスマホ講座を開催することも実施できました。今後もケアプラザを気軽に利用し地域の福祉保健の拠点として活用されるように取り組んでいきます。

区からのコメント

男性の通いの場、社会参加の機会が不足しているという地域課題を踏まえ、包括支援センター職員、生活支援コーディネーター、地域活動交流コーディネーター、地域活動団体などが協力・連携し、男性の介護予防グループを立ち上げました。また、人が集まる機会を上手く活用し、虐待防止や詐欺被害防止・自己決定支援など幅広く権利擁護に関する啓発に積極的に取り組みました。8050問題や障害や精神疾患を持ちながら地域で生活している方への支援など、専門職による支援に加え、地域の理解や見守りが不可欠な相談も増えています。地域ケア会議などを活用し、個別の課題を地域課題としてとらえ、地域の協力や理解を得られるような戦略的な働きかけを期待しています。
 出張相談に出向き顔の見える関係を作れることはとても大事だと思います。相談内容を聞き対応のアドバイスなどができると相談室の力の底上げにもつながり対応力が高くなるのではないかと思います。また、コロナ禍でも地域の中でニーズをつなげていく活動や取組を積極的に実施できたと思いますので次年度、コロナが落ちついた後の地域の活動のつながりの発展を期待しています。一方でコロナ禍を通しオンラインでのイベント実施も増えたと思います。引き続きスマホ講座など地域の方のオンラインのスキルアップを図る取組を進めていただくことにも期待します。